

団体名

公益財団法人  
仙台観光国際協会

多文化共生施策担い手連携推進事業

ジャンル

災害対策

事業名

## 「多文化防災ワークショップ」協働制作事業

### 事業のポイント

- ◇仙台観光国際協会（旧 仙台国際交流協会）が過去実施した防災事業や東日本大震災での経験を踏まえ、多文化共生の視点から防災について考えるためのワークショップ教材づくりを市民や関係機関・団体と協働で実施。
- ◇制作した教材は、2015年3月14日～18日に仙台で開催された国連防災世界会議の「パブリック・フォーラム」（関連事業）で公開。

### 事業の背景・目的

- ◇仙台観光国際協会では平成12年度より「仙台市災害時言語ボランティア」の育成をはじめ、災害時外国人支援体制の整備、防災啓発に努めている。また、2011年3月に発生した東日本大震災では仙台市が設置した「災害多言語支援センター」を市民と協働で運営した。
- ◇本事業ではワークショップ教材の制作を通じこれまでの取り組みを振り返るとともに、震災対応で得た知見を全国で共有することを図った。

### 事業の概要

- ◇2011年の東日本大震災では、情報が得られずに不安を感じる外国人被災者の姿が見られた。また、多くの外国人被災者が集まった避難所では、言葉や文化の異なる外国人被災者の対応に苦慮したという避難所運営者の声も聞かれた。
- ◇こうしたことから、仙台観光国際協会（旧 仙台国際交流協会）では、下記のとおり「多文化防災ワークショップ研究会」を実施し、避難所で日本人市民と外国人市民の間にかかる問題について考えるワークショップ教材を作成した。本教材は言語や文化の違いから避難所で起こる誤解や行き違いについて、その解決の方法やどうすればそのようなことが起こらないようにできるかを参加者がワークショップで話し合うことを目的としている。延いては、それらを通じて、多文化共生の視点から防災やまちづくりを考えるきっかけになればと考えている。

#### ◇多文化防災ワークショップ研究会の実施（全5回）

[第1回]	2014年9月11日（木）	13:30-15:00
[第2回]	2014年10月17日（金）	15:00-17:00
[第3回]	2014年11月18日（火）	15:00-17:00
[第4回]	2014年12月18日（木）	13:00-15:00
[第5回]	2015年1月19日（月）	15:00-17:00

#### ◇多文化防災ワークショップ制作チーム（括弧内は制作時の肩書）

阿部真理子（認定NPO法人IVY）、太田千尋（仙台市宮城野消防署）、小島悠可（仙台市市民局交流政策課）、今野均氏（片平地区まちづくり会）、佐藤登（仙台イスラム文化センター）、アリーセ・ドンネレ（せんだい留学生交流委員）、グティエレス・トマス（同左）、博文婷（同左）、川合朋子（仙台国際交流協会）、菊池哲佳（同左）、須藤伸子（同左）、堀野正浩（同左）

#### ◇多文化防災フォーラムの開催（参考）

[主催]	公益財団法人仙台国際交流協会、仙台市
[日時]	2015年3月15日（日）10:00～11:40
[場所]	TKP ガーデンシティ仙台勾当台ホール6
[参加者]	90名



多文化防災ワークショップ教材



多文化防災ワークショップ研究会メンバー

## 事業実施における工夫点・事業の成果等

### ◇事業実施における工夫点

多文化防災ワークショップの制作で工夫した点として、1 つには東日本大震災で実際に見聞した話をもとに制作したことがある。東日本大震災時で「仙台市災害多言語支援センター」を運営していた際に見聞きした話や、震災後の関係者へのインタビューをもとに制作している。

もう1つの工夫した点として、留学生、市民団体、町内会、行政、国際交流協会など、さまざまな立場を超えたメンバーが協働で制作したことがある。例えば、留学生には震災時の体験を語ってもらい、ワークショップのやりやすさについて意見をもらった。また、震災時に避難所の運営に携わった町内会の役員の方々にも震災時に苦労したことについて聞き取りを行い、実際にワークショップに参加してもらい、感想や意見をもらった。

### ◇事業の成果

2015年3月14日(土)から3月18日(水)まで仙台で開催された国連防災世界会議のパブリック・フォーラム(関連事業)として3月15日(日)に「多文化防災フォーラム」を開催し、多文化防災ワークショップを公開した。当日は定員を超える参加者に恵まれ、関心の高さがうかがえた。また参加者のアンケートでは、「避難所は社会の縮図であると感じた。人物設定がより具体的でイメージしやすかった」、「参加者の方々との意見交換も刺激的なものとなった」、「自分自身も3.11大地震では地域の避難所で避難所運営に関係したこともあり、ワークショップではその当時のことを思い出した。町内には外国の方の家族もしいに多く見られるようになり、これから益々増えてくることと思う。今日のワークショップは良い経験になった」など、有意義なコメントが多数あった。



町内会のみなさんとの試行

## 今後の課題・将来に向けての展望等

今後の課題として、多文化防災ワークショップの活用がある。多文化防災ワークショップの制作は本事業の終了をもっていったんの完成は見たものの、改善すべき余地は大いにあると考えられ、今後は全国の各地域で広く活用していただきフィードバックをいただきながら改善していきたいと考えている。

また、全国の各地域で広く活用していただくためにも、教材をウェブサイト等を通じて公開するとともに、ファシリテーターの派遣や養成を検討したいと考えている。



多文化防災フォーラム(2015年3月15日実施)の様子

## 事業担当者のふりかえり

- ⇒ 東日本大震災を通じて痛感したことは、マニュアルだけでは対応できないのが災害であり、災害時は状況に応じて柔軟な対応が求められるということである。また災害は、日頃から培ってきた「顔の見える関係」や人や組織のネットワークが試される局面であることも感じた。
- ⇒ そこで、災害通訳ボランティア等の研修ではマニュアル通りに行動するのではなく、場面に応じてどのように行動すべきかを考える、「正解」のない問題を考える必要があると考え、企画したのが「多文化防災ワークショップ」である。また、ワークショップを通じて参加者どうしが「顔の見える関係」を築くためのきっかけになればと思う。
- ⇒ ワークショップはまだ粗削りな内容であるが、さまざまな地域で活用していただきながら改善を図っていききたいと思う。